# (c)印刷用紙の節約方法

#### - 実行結果の確認と印刷方法 -

- 1. はじめに
- 2. ソースプログラムの変更
- 3. COBOLエディタの起動と印刷方法

### 1. はじめに

実行結果は、通常直接プリンタに出力して確認しますが、この方法では用 紙の使用量が多くなることがあります。下記のように、一旦ファイルに出 カして、出力結果が正しいことを確認してからプリンタに出力する手順に すると、用紙を節約することができます。

・実行結果をファイルに出力します。

・COBOLエディタを使用して出力結果を確認してから印刷します。

### 2. ソースプログラムの変更

次に示すように任意のフォルダのファイル名を指定します。 (ファイル実体が存在しなくても、指定されたファイルが作成されます)

直接プリンタに出力するときの指定 SELECT ファイル名 ASSIGN TO 'PRINTER'.



ファイルに出力するときの指定 SELECT ファイル名 ASSIGN TO 'C:¥Temp¥data¥OUTFILE'.

### 3. COBOLエディタの起動と印刷方法

[手順1] スタートボタンを押し(①)、「プログラム((P)」の所にマウスポイ ンタを移動します(②)。

すると起動できるプログラムの一覧が表示されます。

	<b>.</b>	プログラム(型)	•	 アクセザリ COBOL2002	•
(2)		最近使ったファイル( <u>D</u> )	•		
	<b>"</b>	設定(S)	•		
		検索©)	×		
	2	ヘルプ(出)			
	2	ファイル名を指定して実行(R)			
	<u>چ</u>	k997571 のログオフ(L)			
1		<u>シャットダウン(U)</u>			
	<b>ほ</b> え	<u>9-</u> F			

[手順2] プログラムの一覧の中から「COBOL2002」の所にマウスポインタを 移動します(①)。プルダウンメニューから「COBOLエディタ」を選 択します(②)。



#### [手順3] 出力ファイル(C:¥temp¥data¥0UTFILE)の表示 起動されたCOBOLエディタ画面より「開く(0)」を選択します(①)。 すると「ファイルを開く」画面が表示されます(②)。

🛓 COBOLIデ約 for COBOL20	)2		
ファイル(E) 編集(E) 検索(S)	構文化(わジョン@)	୬−ル(፲) ሳィンドウ(₩) ^ルプ( <u>H</u> )	
新規作成(N)	Ctrl+N	. 17 ±2 ±2	5 <b>5</b> 8 %
開いる(の)	Otrl+O Otrl+F4		
上書き保存( <u>G</u> ) 名前を付けて(保存( <u>A</u> ) すべて保存( <u>L</u> )	Ctrl+S		
<b>ページレイアウトの設定(U)</b> 印刷プレビュー(y) 印刷( <u>P</u> )	Ctrl+P		
プロノペティ( <u>R</u> )			
COBOLIデ物の終了🖄	Alt+F4		
ν <del>7</del> °r		行: カラム:	





[手順4]「ファイルを開く」画面から

 ①「ファイルの場所」で該当フォルダ(C:¥temp¥data)を指定します。
 ②「ファイルの種類」で「すべてのファイル(\*.\*)」を選択し、表示された ファイルの一覧から「OUTFILE」を選択します。

- ③「開く(0)」ボタンをクリックします。
- ④ファイル中に特殊文字が含まれていると、「特殊文字の削除] 画面が表示されます。
- ⑤「はい(Y)」をクリックすると、「OUTFILE」が表示されます。
- \* 印刷ファイルは改行コード(特殊文字)が含まれるため「特殊文字の削除」 画面が表示されますが、ファイルの表示内容には影響ありません。



[手順5] 表示された「OUTFILE」の内容が正しい場合は印刷します。

①エディタのメニューバーの「ファイル(F)」をクリックし、プルダウ ンメニューの中から「印刷(0)」を選択すると「印刷」画面が表示 されます。

②「印刷」画面の「OK」ボタンをクリックします。

🖹 COBOLIन्गे/१ for COBOL2002 - [C:	ftemp¥data¥OUT	FILE]		
📄 ファイル(E) 編集(E) 検索(S) 構	文仏 わられ(	0) ツール(T) ウィントや	1(₩) ^/レフ°( <u>H</u> )	_ 8 ×
0 🛩 🖬 🍯 👗 🖻 💼 (	ຽ ຈ 🛛 🖏 🗌		■ ¥9 ±9 98 9	È.
		8	🔁 🗖 🎞	
] CI 68				
<b></b>	••+••3•••	++++++4++++++++++++++++++++++++++++++++	++ <b>5</b> +++++++++6+++	+++++++7++++++
商品名 1.エアコン(L-100) 2.冷蔵庫 3. ポータブルテレビ	個 数 1 0 1 5 3 5	金 額(万円) 250 300 350		
······ 合 計	60	900		-
				Þ
ν <del>7</del> °r		行: 1	力ラム: 1 挿.	λ
			印刷	

12	🖹 COBOLIデ タ for COBOL2002 - [C:¥temp¥data¥OUTFILE]						
	ファイル(E) 編集(E) 樽	è索(S) 構文(Y) わション	ወ) ୬−ル① ዕለንՒԾѠ	^ルフ°( <u>H</u> )	_ & ×		
	新規作成( <u>N</u> ) 開( <u>Q</u> ) 閉じる( <u>C</u> )	Ctrl+N Ctrl+O Ctrl+F4		-] <u>+</u> 0 f0  38 ⅔			
	上書き保存(S) 名前を付けて保存(L) すべて保存(L)	D刷 - プリンター	PXPDINTE D1		?×		
ſ	ヘページ <sup>、</sup> レイアウトの設定 E印刷フッレビュー(ソ) E印刷(P)	1	7 ASER SHOT LBP-730				
	プロノパティ( <u>R</u> )	コメント: Canon L	.BP-730		ファイルへ出力(L)		
	COBOLIディタの終了			─ 印刷語数 ————			
	슴 計	● すべて( <u>A</u> )		部数( <u>C</u> ):	1 🗄		
		○ページ指定(G) 1	ページから(E) ページまで(T)	■ 部単位で印	副②		
_ עדיֿז		€ 選択した部分⊚	A JACO	11 22	33		
		ヘルプ(円)	2	ОК	キャンセル		
					6		

## (d)印刷書式の設定方法

ーはじめにー

プリンタへ出力するときの印刷書式の設定は、開発マネージャから「実行支援」ツールを起動して設定します。

#### [ワンポイントアドバイス]

プリンタ出力時に次のエラーが出力されることがあります。

KCCC3907R-W 文字列の出力がページの右端を超えています。

このエラーの対処としては、次の方法が考えられます。

〈ソースプログラムの修正〉

・プリンタファイルに対するファイル管理記述項に次の指定をする。
 ORGANIZATION IS LINE SEQUENTIAL
 この指定をすると、後部の空白を詰めて印刷します。各行の後部に空白

があるときは、空白の分だけ出力データが短くなるので、エラーを回避 できることがあります。

・出力レコード長を印刷できる範囲に変更する。

〈実行支援ツールの設定〉

- ・用紙の向きを横に変更する。用紙の向きが縦になっていると、1行に印 刷できる文字数が少ないためにエラーになりやすいといえます。
- ・余白/字間値/文字サイズを調整して1行に収まるようにする。

1. 印刷書式の設定

[手順1]「開発マネージャ」のメニューバーから「ビルド(B)」をクリックし、プル ダウンメニューの中から「実行支援(L)」を選択します。

■<開発フネージを for COBOL2002 - sample01	hund		
フ <sup>*</sup> ロジ <sup>*</sup> ェクトマスタ( <u>M</u> ) ファイル( <u>F</u> ) フ <sup>*</sup> ロジ <sup>*</sup> ェクト( <u>P</u> )	ビルド(1) ツール(1) ウィントウ(1)	ヘルフ <sup>°(<u>H</u>)</sup>	
🔹 🛋 🖬 🧭 ங 🔹 🖗   II 😄 ?	ビルト*(B) クイックビルト*(Q) コンパイル(G) リビルト*( <u>R</u> )	Ctrl+B	
🚰 sample01.hmf 🚰 sample01	すべてのプロジェクトに対する操作(圧	) <b>•</b>	
i≕ j reidai1 - reidai1.exe i≕ j ⊻-zファイル	ビルドの中止(S) 依存関係更新(A)		
■ reidai1.cbl	デバッガ( <u>D</u> )		
🖅 🗇 reidai2 - reidai2.exe	実行(E) 実行支援(L)	Ctrl+E	2
COBOL2002 実行支援を起動する			

[手順2]「実行支援」のメニューバーの「設定(E)」をクリックし、プルダウンメ ニューの中から「印刷書式(P)」-「デフォルト(D)」の順に選択します。

素実行支援 fo →BOL2002 - reidai1.CBR	_ 🗆 X
ファイル(E) 設定(E) 実行(R) ヘルプ(H)	
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	
π <sup>-</sup>	削除( <u>D</u> )
▲ 拡張機能 ↓ デバッグ ↓ オブジェクト指向 ↓ イベントログ ↓	_ ユーザ設定 🌓
→ 般   少量データ   ファイル   画面   画面(XMAP)	整列併合
■ CBL_BATCH: プログラム終了と同時にプロセスを終了させる	
□ CBL_SYSERR:実行時メッセージの出力先ファイル名を指定する	
□ CBLABNCODE: CBLABNの引数を終了コードにする	
□ CBLCOMCBR:共通実行環境ファイル名を指定する	
□ CBLEXVALUE: EXTERNAL指定項目の初期値を指定する	
□ CBLLDLL:ダイナミックリンクするDLLの名称を指定する	
□ CBLLPROGDLL:DLL自動ロード機能を使用する	-
,	

8

#### [手順3]余白/行間隔/フォント/文字サイズ等の設定をします。 用紙のサイズや印刷の向きは「プリンタの設定(P)」で設定します。

詳細設定	×
- プリンタ 名前: ¥¥AT21P¥PRINTER1 場所: LPT1:	OK キャンセル
余白/行/文字 書体	
余白(インチ)	
上①: 0.5 左心: 0.5	印刷行数(N): 自動 📑
下(M): 0.207 右(B): 0.207	
行間隔型: 4 lpi (18 pt) ▼ 間隔②:	
字間隔(H): 10 cpi 💌 間隔(B): 📑	ドキャンプログランドを行った。
文字 7 <u>37)h名(F): スタイル(Y):</u> 明朝 サイス*(S): 配置(A): 9 pt ■ 下揃え ▼	7°レビュー AaBbYyZzあぁアァ亜宇 AaBbYyZzあぁアァ亜宇 AaBbYyZzあぁアァ亜宇



[手順4] 「プリンタの設定」画面で、用紙サイズのリストボックスから該当する用 紙サイズを選択(①)します。印刷の向きは、「縦」、「横」のラジオボタ ンから選択(②)します。必要な情報を設定したら「OK」ボタンをクリッ ク(③)して終了します。

プリ	しタの設定			×	
	-プリンター				
	ブリンタ名( <u>N</u> ):	¥¥AT21P¥PRINTER1	•	プロパティ( <u>P</u> )	
	状態:	準備完了			
	種類	Canon LASER SHOT LBP-730			
	場所:	LPT1:			
	אלאב	Canon LBP-730			
				の向き	
	サイズ(乙):	B4 (JIS)	<u> </u>	♪ <sup>○縦◎</sup> <	⊐②
	給紙方法( <u>S</u> ):	A3 A4 A5 B4 (JIS)			
	ネットワーク( <u>W</u> )	B5 (JIS) Executive	OK Z	キャンセル	
					9

[手順5]「詳細設定」画面に戻ったら、「OK」ボタンをクリックして終了します。 「実行支援」画面に戻ったら、メニューバーの「ファイル(F)」をクリックし、 プルダウンメニューの中から「終了(X)」を選択します。

詳細設定	×
フツンター 名前: ¥¥AT21P¥PRINTER1 場所: LPT1:	OK
<ul> <li>□ 通常使うプリンタに出力(D)</li> <li>余白/行/文字 書体  </li> </ul>	[79)75の設定(1)
余白(インチ) 上①: 0.5 左U: 0.5 下(M): 0.207 右(B): 0.207	印刷行数(N): 自動 📑
行間隔①: 4 lpi (18 pt) ▼ 間隔②: 字間隔①: 10 cpi ▼ 間隔(B): 3	□ 半角文字と全角文字の間隔を調整する(©)
文字- 7ォント名(E):  7ォント名(E):  7ォント名(E):  7ォント名(E):  環準 ▼ サイス*(S):  9 pt  1  1  1  1  1  1  1  1  1  1  1  1  1	7 <sup>°</sup> bt <sup>°</sup> ュー <u>AaBbYyZzあぁアマ亜字</u> <u>AaBbYyZzあぁアマ亜字</u> AaBbYyZzあぁアマ亜字

▶ 支援 for COBOL2002 - reidai1.CBR (更新)	_ 🗆 🗙
ファイル(E) 設定(E) 実行(R) ヘルプ(H)	
新規作成( <u>N</u> )	
開(@)	
上書き保存(S)	BURA(D)
名前を付け(1米仔(A)	用印标(U)
「終了◎ (2)	
<u>拡張機能 デバッグ オブジェクト指向 イベントログ</u>	ユーザ設定
一般   少量データ   ファイル   画面   画面(XMAP)	整列併合
■ CBL BATCH: プログラム終了と同時にプロセスを終了させる	
□ □CBL SYSERR:実行時メッセージの出力先ファイル名を指定する	
□ CBLABNCODE: CBLABNの引数を終了つードにする	
□ CBLCOMCBB·共通実行環境ファイルタを指定する	
□ OBLEAVALUE: EXTERNAL指定項目の利用他で指定する	
□ UBLLULL:タイナニックリンクするULLの名称を指定する	
│ CBLLPROGDLL:DLL自動ロード機能を使用する	-

[手順7] すると以下のダイアログが表示されます。必ず「はい」ボタンをクリックしてください。「はい」ボタンをクリックすると設定した内容が保存され、開発マネージャの画面に戻ります。



